

地形や気候の特色と人々のくらし	()組	氏
	()番	名

ひろしさんが天気予報を見ていると「東京は晴れていますが、九州地方はもう少し雨の日が続くでしょう。」というコメントがあり、それを聞いたおばあちゃんが、「宮崎は雨が多いから水害が気になるね。」と心配そうにつぶやきました。

そこでひろしさんは、社会科で学んだことをもとに、次の表のように予想しました。

表 ひろしさんの予想

ア	宮崎は、他の都道府県と比べても雨の量が多いのではないだろうか。
イ	日本は国土のはばがせまく、山地が海岸のすぐ近くにあるので、外国の川と比べると川の長さが (①)、流れが (②)。 だから、雨の量が多いと、水害の被害もあつたのではないだろうか。
ウ	水害を防ぐために、いろいろな工夫が行われてきたのではないだろうか。

- (1) 上の表の中の、(①) と (②)
にあてはまる言葉を答えましょう。

①		②	
---	--	---	--

- (2) 下の資料1と資料2は、上の表のアをもとにひろしさんが調べたものです。

資料1と資料2をもとに、次の【ひろしさんが考えたこと】の(③)と(④)
に当てはまる言葉を書きましょう。

【ひろしさんが考えたこと】

資料1から、宮崎県は全国でも降水量が多いところだということが分かる。また、資料2を見ると、新宿では300mmをこえる月が一度もないのに対し、宮崎市では6月は700mm、9月は500mmをこえている。宮崎市で6月に降水量が多いのは(③)の影響、9月に多いのは(④)の影響によるものだと思う。

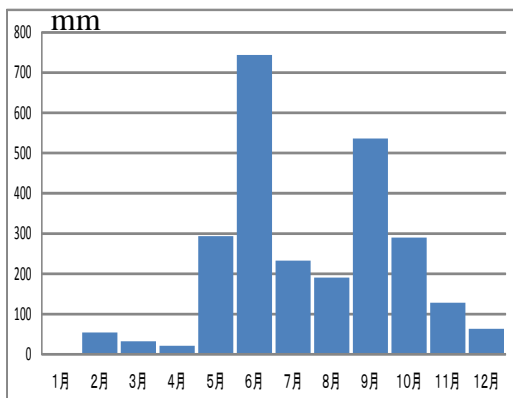
③	
④	

資料1 主な都県の年間降水量の比かく(1981年～2010年の30年間の平均)

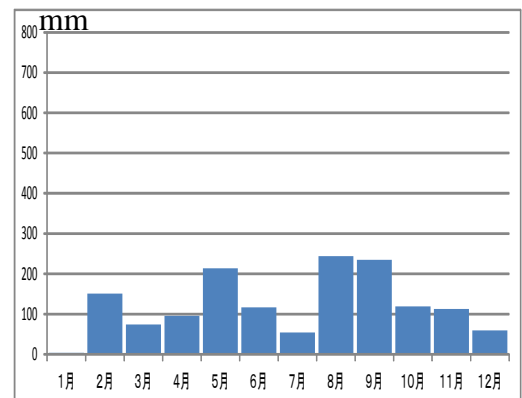
都県名	高知県	宮崎県	石川県	静岡県	東京都
降水量(mm)	2547.5	2508.5	2398.9	2324.9	1528.8
全国順位	1位	2位	3位	4位	26位

資料2 宮崎市と新宿の月ごとの降水量(2011年)

宮崎市



新宿(東京都)



※ 資料1・資料2は、「気象庁ホームページの統計資料」より作成

(3) 下の資料3～6は、前のページの表や考えたことをもとに、ひろしさんがそれぞれ調べたものです。

これらの資料をもとに、次の【ひろしさんのまとめ】の（ ）の中に当てはまる言葉を考えて、書きましょう。

【ひろしさんのまとめ】

資料3から分かること	床上浸水や床下浸水などの水害が毎年おきており、特に平成17年は被害が大きかった。こういった被害を防ぐために、資料4～6のような対策が必要である。
資料4の対策	大雨などの水を一時的にダムにためておき、流れる水の量を（ ）ことで川の水があふれることを防いでいる。
資料5の対策	川のはばを（ ）したり、川の底をほったりすることで川の水を流れやすくし、川の水があふれることを防いでいる。
資料6の対策	（ ）、川の水があふれることを防ぐ。

資料3 ^{みやざき}宮崎県の^こ床上浸水などの被害戸数（※「宮崎県災害統計資料」より作成）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
床上浸水	1407	94	156	35	3
床下浸水	2964	235	527	388	7
全壊	1136	77	7	4	0
半壊	3381	434	8	0	0

床上浸水：住居の床の上まで、または地面より45cm以上の高さが水につかってしまうこと。

床下浸水：床上浸水までの高さではない浸水。

全壊：その家の床面積の70%以上がこわれたり流出したりした状態。

半壊：その家の床面積の20%～70%がこわれたり流出したりした状態。

資料4 田代八重ダム



資料6 ていぼうの様子



資料5 川の工事の様子

